

第6学年社会科

「米づくりがもたらしたくへの道のり ～国づくりの歩み～」

学習指導者 半澤 友博

単元の概要

縄文時代の暮らしを読み取った後に、古墳時代の資料を提示することで暮らしの変化に驚き、人々の暮らしはどのように変わっていったのか知りたいという思いを高め、「大昔の人たちの暮らしはどのように変わっていったのだろう」と単元の目標を設定した。そして、採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子について調べ、むらからくになつた世の中の様子を捉えていった。

課題設定

本時の初めに、補助黑板やノートを基に前時の学習を振り返る場を設定することで、米づくりが始まり、食料が安定してきたことを確かめた。そして、首のない人骨やほりやさくの資料を掲示し、むら同士の争いが起こったことを捉え、「米が広がってより安定するはずなのに、なぜ争いが起こったのか知りたい」という意欲を高め、課題を設定した。



なぜ米づくりが広まると、むら同士の争いが起きたのか考えよう

解決の見通し

これまでの学習経験から、社会科のこつ（時間・空間・立場）を手掛かりに、本時使えそうな資料や既習を選び、解決の見通しをもっていった。その際、補助黑板や社会科のこつなど、既習を振り返りやすいものを選択できるようにしておくことで、縄文時代と比べて考えたり、弥生人にとっての米の価値を考えたりして課題の解決をしていこうとする姿が見られた。



時間を広げて、縄文時代と比べたら解決できそうだよ。

解決

既習を基に自分の考えをノートに書いた。その後、「考えを作った後はどうすればよかったかな」と問い「**今の考えでよいかを確かめる**」という方法を想起した。友達と交流したり、他の資料を見たりすることで米づくりに必要な土地や道具などを奪い合って争いが起きたことを捉え、方法のよさを感じられる姿があった。その後、吉野ヶ里遺跡の高床式倉庫の場所を確認し、実際の写真からくへの中心には大きな建物（祭殿）があり、指導者が大切にされていることを理解した。そして、米づくりや争いには人の団結、連携が必要といった指導者の大切さを捉え、勝ったむらは負けたむらを取り込み、だんだんと大きなむらとなり、それがくになつていったことを理解していった。



確かに。米づくりには道具が大切でそれを奪い合ったんだね。

振り返り

本時分かったことや分かった理由と自分なりのがんばり、友達のよかった考え、次時に分かりたいことの中から自分が選択した観点で振り返りカードに記述した。また、友達の考えのよかったこと考えを見付けた人は、その相手に感謝を伝えることで、友達と関わるよさや互いに自己の貢献を感じていた

考察（○：成果、▲：課題）

- 課題解決に向けて、友達と話したり、他の資料を見たりしながら、今の考えでよいかを確かめることができた。むらからくになつていった様子について地図の資料を用いながら説明することができた。
- ▲ 「米よりも指導者を大切にしていたのはなぜ」という疑問の方が子供にとって解決したい課題だったのではないかと感じる課題になるように、単元構成を工夫する必要があった。



